

大豆栽培管理情報 (第1号)

平成27年4月24日
アルプス農協管内農業技術者協議会

～排水対策の徹底と適正な播種量で苗立ち本数を確保しましょう！～

1. 排水対策の徹底

排水不良のほ場では湿害を受けやすく、大豆の出芽不良や生育抑制、病害や雑草の発生等につながり、培土等の適期作業にも支障をきたします。排水対策にしっかり取り組みましょう。

- ①用水路や水口からの漏水をしっかり防止する。
- ②額縁排水溝の設置や心土破碎を実施していないほ場では、早急に実施し、ほ場の乾きを促進する。
- ③額縁排水溝の手直しや、深く掘り下げた排水口への確実な連結など、速やかな排水に努める。

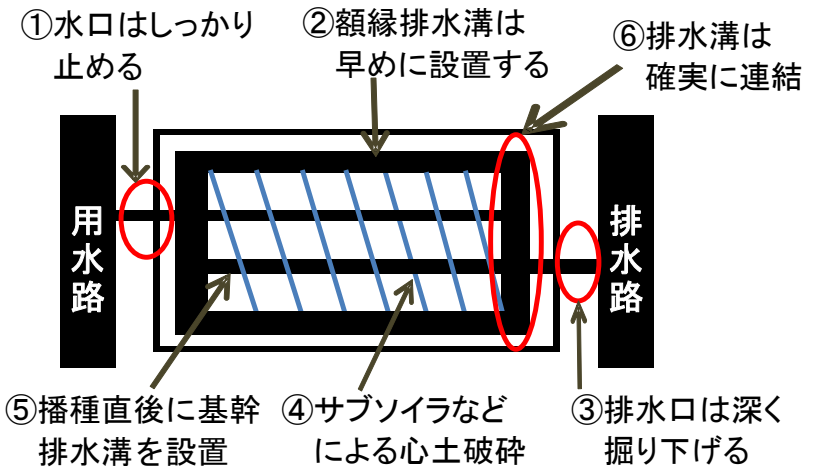


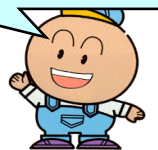
図 排水対策の手順

2. 土づくり資材の施用

pH6.0～6.5を目標に石灰質資材を施用するとともに、堆肥等を積極的に施用しましょう。

石灰質資材	堆肥(いずれかを施用しましょう)		
粒状貝化石	牛ふん	豚ふん	発酵鶏ふん
150～200kg/10a	1～2t/10a	0.5～1t/10a	100～200kg/10a

管内のほ場はpHが5.4～5.8の土壌が多く、酸性化しています。石灰質資材は確実に施用しましょう！



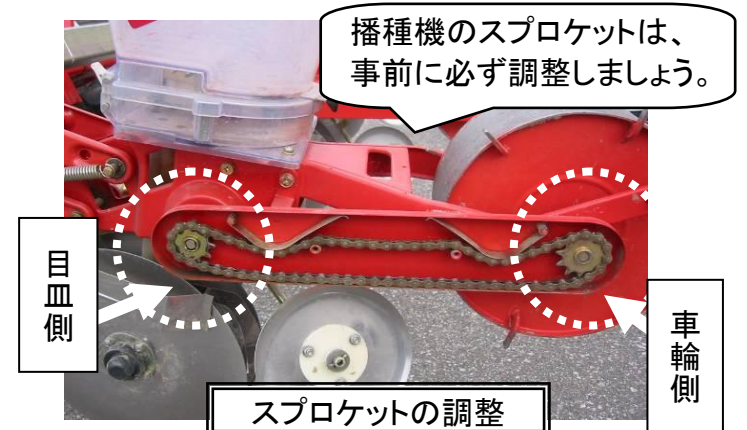
3. 種子消毒(病害虫対策)

対象	薬剤名	処理量	処理方法	備考
アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ、茎疫病、紫斑病、苗立枯病、リゾクトニア根腐病	クルーザーMAXX	8ml/乾燥種子1kg	塗沫処理	塗沫後、種子を十分乾かしてください。

4. 播種作業

栽植本数を確保するため、播種作業はていねいに行いましょう。

- ①耕起、碎土・整地、播種、作溝の一連の作業は、土が乾いた状態で行い、1日で終わるようにする。
- ②播種深さは**3cmを目安**とし、種子が露出しないようにする。
- ③播種作業の速度は、人がゆっくり歩く程度とする。
(30aのほ場を70分程度の播種速度が目安(3連播種機))



播種機のsprocketは、事前に必ず調整しましょう。

【目皿別の播種時期と目標栽植本数・sprocket(歯車)の目安(品種:エンレイ)】

目皿	播種時期	目標栽植本数(本/10a)	播種量(kg/10a)	m当たり播種粒数	sprocketの目安	
					目皿側	車輪側
B-2	5月下旬～6月上旬	16,000	6.3	14	10	14
	6月中旬～(麦跡等)	18,000	7.1	17	9	14
B-22	6月上旬～中旬(麦跡等)	18,000以上	7.1以上	17以上	13	11

※百粒重は大粒35.3gで換算。条間80cm、1株2粒播種、苗立率90%の場合

今年の大粒種子は百粒重が大きいので、昨年と同じ播種時期の場合、昨年より1割程度多めに準備しましょう。

5. 基肥量

(10a当たり)

肥料名	ほ場条件	側条施肥	全層施肥
BB088 (N:P:K=10:18:18)	普通田	20kg	30kg
	砂壤土、地力の低い田	30kg	40kg

※麦跡の場合は、上記に硫安10kgを追加する。

大麦跡で大豆の作付けを予定されている方は、大麦の収穫後、すぐに播種できるように準備しましょう。

6. 播種後の除草剤

薬剤名	10a当たり散布量	希釈水量	使用上の注意点
トレファノサイド粒剤 2.5	4～6kg	—	・播種直後に土壌表面に散布する。 ・極端に乾いた土壌に散布した場合、除草効果が劣るので注意する。 ※サターンバアロ粒剤・乳剤は、帰化アサガオ類の発生が懸念されるほ場で使用する。 ※ラクサー乳剤は、散布直後の多量の降雨で薬害が生じる恐れがあるため、天候を見極めて散布する。
トレファノサイド乳剤	200～300ml	100ℓ	
サターンバアロ粒剤	4～6kg	—	
サターンバアロ乳剤	600～800ml	100ℓ	
ラクサー乳剤	400～600ml	100ℓ	